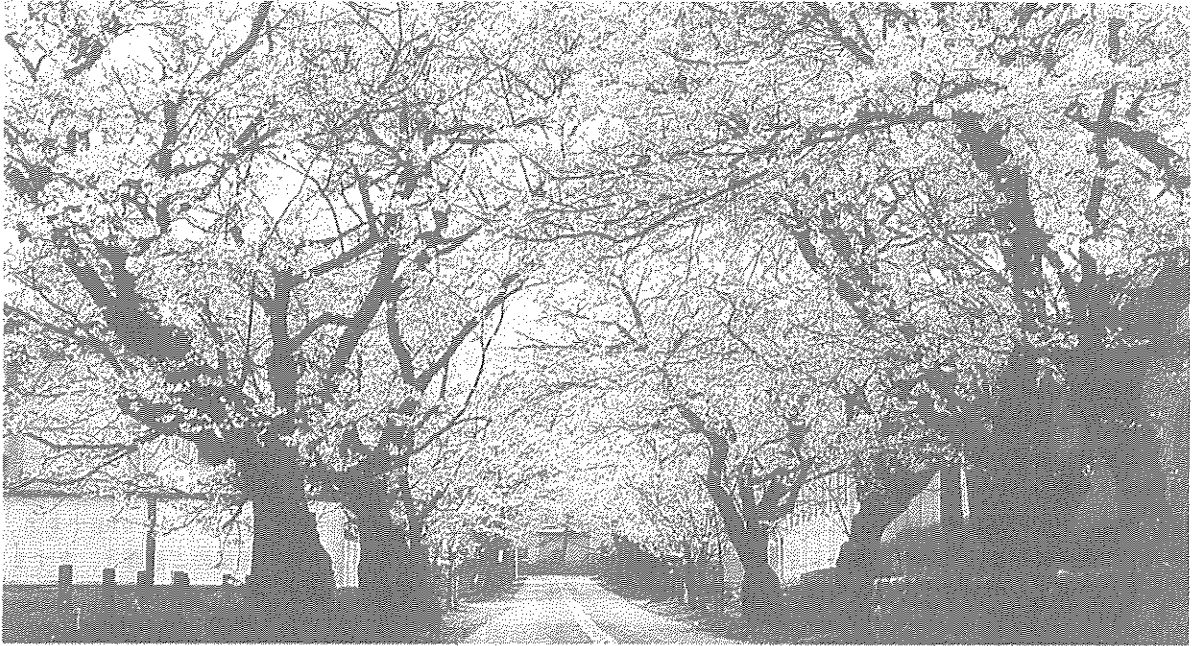


同窓会会報

第51号

平成15年8月17日発行

富山県立上市高等学校同窓会



校舎前の桜並木



世代を越えて

同窓会長 中川久尚

同窓生の皆様には、お元気で地域社会発展のためご活躍なさっていらっしゃることに、お喜び申し上げます。

母校上市高等学校も、校長はじめ教職員一丸となって生徒の育成に努力され成果をあげておられることに、心から敬意を表します。

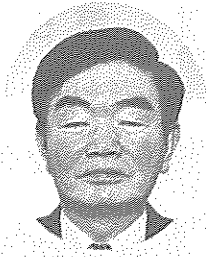
上市高校は、大正9年郡立中新農業学校として産声をあげて以来、時代の要請とともに幾多の変遷を経て、平成9年には総合学科単独校として新しい歴史を刻み始めました。

しかしながら、時代や社会の変化、そしてその中で成長していく生徒たちの意識の変化に相応して変わるものがある一方で、地域社会の文化的な風土、校風や伝統は、確かな精神的な拠り所として横たわり、母校の支えとなっております。

総合学科としての卒業生も、はや4期母校から巣立ち、同窓会員総数も2万名を越えました。創校以来一貫した校訓「勤労・自治・向上」の精神で育まれた同窓生が、母校を愛し、友情溢れる同窓会として躍進するよう、世代を越えて母校の教育伸展に協力するなど、新たな発展をめざしたいと思っております。

同窓生の皆様の若き日を彩った正門からの桜並木が今年も見事に咲きました。どうか母校の「今」にも深い関心を寄せられ、頻繁な来校と後輩たちへの激励をお願いしたいものです。

終わりにになりましたが、会員各位のご健康とご多幸を祈りますとともに、母校発展のため、今後益々のご支援をお願いし、ご挨拶いたします。



心身の年間 サイクルについて

校長 布村 清嗣

日本の学校も、入学式を9月にしようという議論が、幾度となくなされてきた。最近では、学校週五日制に伴って、二期制への移行について議論が囂しい。挙げて二期制への移行を目ざしている県もあるようだ。その一方で、長年二期制を実施してきたある高校では、三期制に戻すという。学校運営が二期制であることは、日本の季節の推移にそぐわないからとのことである。

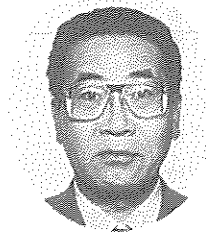
私は、かつて警察学校に勤務したことがある。その2年間は、季節の巡りと仕事に対する心身のリズムに、いつも違和感を感じていた。警察学校では、入学式は年1回だが、卒業式は年2回。初任科生といってももれっきとした公務員であり、夏季休業はない。武道大会や学外での研修はあるが、いずれも職務に直結するものであり、学校教育の中での遠足や体育大会とは目的が異なる。入学式・始業式に始まる一年が、春から夏への季節の巡りとともに、遠足、中間考査、高校総体……と進む中で、

生徒たちの成長あるいは変貌を目の当りにしながら、1年を過ごすという習慣は、すっかり私の心身のサイクルになってしまっていたのだ。

急激な教育改革は、社会の変化に伴う巴むを得ないものばかりだが、せめて入学式の時期や学期制に関しては、ゆっくりと時間をかけて議論していきたいと考えている。

常緑樹と落葉樹が混在する真冬の中庭に、「歳寒くして、然る後に松柏の彫むに後るを知る」などと嘯きながら、年度末の諸事に忙殺されているうちにも、自然は春の芽吹きへの準備を怠らない。満開の桜並木の下で、生徒とともどもに新年度への心を新たにできるのは、上市高校に勤務する者の何よりの贅沢かも知れない。今年もまた、野球部員の投打に、球場のスタンドで一喜一憂しながら、夏の到来の近いことを実感するこの頃である。

末筆になりましたが、会員の皆様のご健勝と、ますますのご活躍を祈念いたします。



明るく、落ち着きある 思いやりの学校

教頭 穴口 幸雄

上市高校に赴任して、通算で18年になる。教員生活の半分を過ごし、同窓生以上に上市高校に在籍し、本校への思い入れも熱いものがある。

この間、生活科・農林工学科・薬業科そして普通科・農業科学科がなくなり、総合学科となり大きく改変された。また、同窓会などの支援を得て施設・設備面でも充実した。

私個人の思い出の一つに平成元年発行の「七十年史」編集事業の一部を担ったことがある。様々な資料・書物・文献を読む機会が与えられ、近現代の中等学校教育史を学ぶことができ、よい経験になった。また、上高・旧農林・旧上女の先輩諸氏諸姉の開拓者精神と並々ならぬ苦労の感を深くした。

総合学科は生徒の個性・主体性を育む点に特徴があり、生き生きとした学びの姿が出せるように工夫をしている。生徒各人の適切な進路実現ができるよう進路学習・科目

選択を重視している。21世紀では、国際化、少子高齢化、情報（IT）化、環境とエネルギー問題、健康と余暇の過ごし方などの課題がある。本校では、これらの課題を視野に入れ人文国際、福祉健康、情報ビジネス、自然科学、グリーン、スポーツ科学の6つの分野（科目のかたまり）を設け、学習にメリハリを付けている。

最近では、生徒の発案による“さわやか委員会”の設置で、挨拶がよりしっかりととされるようになり、明るく、生き生きしている。また、朝の10分間読書で、一段と落ち着いてきている。従前からのボランティア活動は活発で、ボランティアサポーターが多数いて、やさしさ、思いやりあふれる学校になっている。

今後、ITなど利用の情報発信、開かれた学校づくり（公開・参画）、学校内外での説明責任の確立、学校の評価制度の導入などが急務となっている。